



ることがあります。しかし、幼少期に自ら気づくことができないため「人と同じじゃないといけない」と頑張っています。頑張っているのに周囲は気づきません。うまくできずに怒られることもあります。友達からからかわれてしまうことがあるかもしれません。それでもみんなと同じように頑張って頑張って頑張り続けているのです。頑張り続けてふと限界に達するとどうなるでしょう。もし食べることができなくなってしまったら体重が減ってしまいます。ARFIDの発症です。

何かエピソード(喉に詰まってしまった)があれば突然発症する子もいますが、以前から実は体重が増えていなかったという子も比較的多いです。学校から持ち帰る健康診断の記録を見てあげてください。体重は増えていますか?身長は伸びていますか?成長曲線と同じように成長

していますか?

小児の成長期の低栄養状態は、低身長、骨粗鬆症など多くの合併症が生じます。大きくなってから身長を伸ばそうと思っても、骨を丈夫にしようと思っても不可能なことが多いです。

この1学期、学校で必ず体重身長を測定しています。印鑑を押すようにお子様は学校から持ち帰っていませんか?成長曲線を見てあげてください。小児科の外来にも成長曲線(紙)はおいてあります。ネットにも載っています。母子手帳の記録から是非お子様の成長の記録をプロットしてみてください。もし曲線から大きく逸脱している場合、あるいは曲線に明らかに沿っていない場合にはかかりつけ医や当院の小児科医に相談をしてください。(小児科 鈴木 由紀)



# 新たな卵アレルギー治療研究: EPRO 試験



卵アレルギーがあるけど、  
少ししか食べられない。  
または、負荷試験を試みても症状が出てしまう。  
そんな悩みを持つ方々へ、  
新たな研究が始まりました。

## 今までの問題

三重病院では、卵アレルギーのために卵を少量しか摂取できない方々を対象に、経口免疫療法という方法で卵の摂取量を増やす可能性のある治療研究を進めてきました。しかし、この方法でも卵の摂取量が上がらない方々がありました。そこで、新しい研究を開始することになりました。



## 研究の目的

最近の研究で、乳酸菌などのプロバイオティクス(良い微生物)を摂取することが、経口免疫療法の効果を向上させる可能性が示唆されています。この新しい研究では、プロバイオティクスを摂取しながら卵の顆粒を摂取することで、卵の摂取量を増やすことができるかを検討します。この研究は、国立病院機構相模原病院が主導し、三重病院も協力しています。

## 参加資格

- 年齢：5歳から18歳まで
- 卵白の摂取量：5g以下でアレルギー症状が出る方

## 研究スケジュール

研究期間は1年間です。プロバイオティクスを摂取しながら、定められた量の加熱卵の顆粒を摂取します。治療開始前と1、3、6、9ヶ月後の定期受診、治療開始前と1、3、6、12ヶ月後の血液検査、そして治療開始前と12ヶ月後の便検査が予定されています。目標は、12ヶ月後の食物経口負荷試験で、加熱卵半個までの摂取を達成することです。

卵アレルギーで悩んでいる方、あるいはその保護者の皆さんへ、三重病院では様々な治療選択肢をご提供しています。それぞれに特性がありますので、詳細は診察時にお尋ねください。また、具体的な質問や詳しい話を聞きたい方は、いつでもアレルギー科にご相談ください。



(三重病院EPRO研究担当者 有馬 智之)

